

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和元年度第7回）議事概要

日 時：令和元年10月25日（金）10：00～11：30

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室

出席者：中釜斉理事長、南砂理事、児玉安司理事、松本洋一郎理事、小野高史監事、増田正志監事

欠席者：間野博行理事、北川雄光理事

I. 前回（令和元年度第6回）議事録の確認

- ・ 前回議事録について了承。
- ・ 前回議事録署名人を松本理事と小野監事に依頼。

II. 審議事項

- ・ なし

III. 報告事項

1. 平成30年度業務実績評価

資料に沿って報告された。

2. 今後の人事施策の実行計画について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・ 今まではひとつの組織で人を抱えて育成して育てて退職していく形であったが、現在は様々な組織を渡り歩いていく方が多くいる関係で、そのときの人事制度にどう対応していくかということが必ずしも確立しているわけではない。様々な組織体と連携しながら協議をして自ら変わっていくことも入れておかないといけない。その点についてどのように考えて制度設計をしているのか。
- ・ 流動性を見据えた施策を進めている。コンセプトは若いときから資格をある程度取りながら次のステップに進める形を取っている。
- ・ 今回実施するアクションプランは適用される方とされない方がいるのか。
- ・ NHOや他の人事の関係については8割ほどががんセンタープロパーで回していくことが基本であるとする。全てがんセンタープロパーだけでいいとは考えていない。監査機能や経理機能は、より広い視野で行っているNHOとの人事交流も必要であるとする。
- ・ 築地で企画が進展すると柏とはどのように連動させるのか。
- ・ がんセンター全体で行うことをコンセプトとしている。

3. 厚生労働大臣による視察について

資料に沿って報告された。

4. 国立研究開発法人におけるデータポリシー策定にかかる研究への協力依頼について

資料に沿って報告された。

5. 政府の会議の状況

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・これまで行ってきた SSMIX2 の話はどうなるのか。
- ・SSMIX は厚労省で推進しているインターフェイス。接続部分をしっかりと共有化していくことで基本は SSMIX 仕様を入れることについて民間の医療機関の助成を中心に考えていると思う。健康・医療戦略室としては接続部分の SSMIX のみならず、入力の部分も含めて議論を進めたいということではないか。
- ・C-CAT の場合においても診療に利活用する部分と研究に利活用する部分があり、同意は別々に行っている。
- ・情報の利活用が公共の目的であったり、生命、健康、社会福祉等に関わるときにはより緩やかにし、営利に関わる部分については厳格にする。目的に応じて、規制の厳しさを考えていくような柔軟な対応を行わないと、ゲノム情報の利活用のための基盤整備に水を差すことになるので、管理方法については、目的をしっかり整理するという事に襟を正しながら取り組んだほうがよいのではないか。
- ・日本は法制化が諸外国と比べるとできていないが、現場の指針やガイドラインがやたら厳しいという印象はまるでない。患者の心理等様々な点を考えそのようなことになっているとは誰も知らず、総論の一部分しか一般に人には理解されていないというのは非常に大きな問題があると考える。ゲノムは個人にとどまらず家族、親族ひいては国民全体に関わってくる話なので、その部分の理解を積極的に求めていってもいいのではないかという印象を受ける。

6. 広報実績等

資料に沿って報告された。

7. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・データベースサイト「Science Direct」の利用契約について分野ごとで大学同士で連携を取るといような動きはあるのか。

- E-journal が高騰してきており、各大学は苦しい状況にある。どう改善していくかはなかなか難しい話で、いろいろな国のベンチマークを集めればどういう方向に進んでいかが分かるのではないか。
- 出版側にも論理があり、例えば図書館が新刊本を何十冊も買い取ってしまうと、一般の書店での取り扱いが減り、本を出すということ自体のモチベーションがそがれてしまう。学術的にただ単に高すぎるからどうにかしなくてはいけないということだけを議論するのではなく、世の中全体での情報の価値をどう評価すべきか直面している議論でもある。

8. 9月分医業件数について
資料に沿って報告された。